

情報機器の世界市場を調査

情報機器 11カテゴリ 68品目の市場は2016年に12年比10%増の8兆6,464億円
サーバ関連とパーソナル機器関連、ネットワーク機器関連を除く8カテゴリがプラス成長

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、2012年9月から2013年1月にかけて、世界の情報機器 11カテゴリ 68品目の市場を調査した。その結果を報告書「情報機器グローバルマーケット(上・下巻)」にまとめた。

この報告書では、上巻でコンピュータ関連9品目(サーバ関連5品目、パーソナルコンピュータ関連4品目)、ストレージ関連7品目、ストレージメディア関連4品目、ネットワーク関連4品目、モバイル関連3品目、ポインティングデバイス関連4品目、パーソナル機器関連4品目、下巻で映像/音響機器関連9品目、入出力機器関連10品目、システム機器関連7品目、ファシリティ機器関連7品目を調査し、製品カテゴリ別、世界エリア別の市場や主要ベンダのマーケティング戦略などを分析した。

注：2012年は一部見込数字(上巻の調査項目)を含む

＜調査結果の概要＞

1. 情報機器 11カテゴリ 68品目の世界市場予測

2012年	前年比	2016年予測	12年比
7兆8,143億円	108.2%	8兆6,464億円	110.0%

2012年の世界市場は前年比8.2%増の7兆8,143億円となった。最も規模が大きいのがパーソナルコンピュータ関連で、市場の33%を占める。次ぐのがモバイル関連で市場構成比は19%である。

2016年は2012年比10.0%増の8兆6,464億円が予測される。サーバ関連とパーソナル機器関連、ネットワーク機器関連を除く8カテゴリが2016年に向けプラス成長となる。最も伸び率が高いのはスマートフォンが牽引するモバイル関連で、次ぐのがストレージ関連、パーソナルコンピュータ関連、入出力機器関連である。

■サーバ関連 5品目

2012年 4兆8,588億円 2016年予測 4兆8,166億円

市場は占有率78%(2011年)のオープン系サーバの需要減を受け、2012年に前年比1.9%減となり、2016年には2012年比0.9%減が予測される。オープン系サーバの需要は、サーバの所有からデータセンタ等の利用へと進み、サーバ単価の下落、クラウド活用などにより減少する。また、汎用コンピュータの需要も、2012年に金融を中心とした日本の需要拡大で微増となったが、オープン系サーバへの移行は続いており、減少が予想される。一方、スーパーコンピュータは各国政府関連機関や研究機関等のリプレイス需要に加え、成長国の新規需要が期待される。また、ワークステーションはエンジニアリング向けに加え、医療や教育分野向け等の用途拡大が期待される。

エリア別に見ると、今後サーバ需要は北米が市場の約40%を維持する一方で、欧州が市場の成熟化と経済の低迷により当面は減退、日本も2012年こそ2011年の反動などで伸びるが、2013年以降はオープン化とクラウドへの移行が影響し減少すると見られる。また、中国は一時期に比べると需要の伸びは鈍化したものの、それでも2016年に向け年率は3%程度の成長が期待できる。その他アジア(日本、中国を除く。以下同じ)、中南米は企業のサーバ需要や、大規模データセンタの設置が進むことでのホワイトボックスサーバの需要増が期待できる。

■パーソナルコンピュータ関連 4品目

2012年 2兆5,090億円 2016年予測 2兆8,730億円

市場はノートパソコン、タブレット端末が牽引し、2012年に前年比7.3%増となり、2016年には同2

1. 0%増が予測される。ノートパソコンは、デスクトップパソコンからの移行が進む。しかし、ネットブックの需要が一巡し、これらのユーザーがタブレット端末へ移行するため、需要の増加速度は以前より緩やかになる。タブレット端末は、「iPad」の登場以降、様々な製品が登場し、急速に普及している。個人のみでなく、金融機関や流通業など法人向けにも普及してきている。一方、デスクトップパソコンは、新興国の需要増が期待されるものの、ノートパソコンへの移行及び単価の著しい下落から縮小すると見られる。

エリア別に見ると、北米、欧州、日本の需要は概ね飽和しており、伸びは低く、リプレイス中心となっている。一方で、中国では経済成長が鈍化しているものの、所得増から新規需要の拡大が中期的に続くと思われる。また、その他アジアでは、外資系企業の進出が増加しており、需要拡大が期待される。

■モバイル関連 3品目

2012年 15兆2,320億円 2016年予測 19兆 178億円

スマートフォンの需要が急拡大しており、市場は2012年に前年比23.0%増となり、2016年には同53.5%増が予測される。スマートフォンは、フィーチャーフォンからの移行によって大きく需要が拡大している。フィーチャーフォンやPHSは縮小していく。但し、その他アジアや中南米では、フィーチャーフォンの機能で十分と考えるユーザーも多く、縮小は緩やかである。一方、PHSは最大需要国の中国でサービスの終了が発表されており、急激に縮小している。

スマートフォンは、先行した北米や欧州、日本の需要が大きい。日本では、赤外線通信やワンセグ等のいわゆる「ガラケー機能」を搭載したフィーチャーフォンが主流であったこともあり、これらの機能を持たないスマートフォンへの移行を躊躇するユーザーが見られたが、日系メーカーを中心にこれらの機能を装備したスマートフォンが発売され、需要が急速に拡大した。一方、中国ではこれまで大都市の需要が中心であったものの、地方都市においても1,000元程度の低価格帯のスマートフォンが急速に普及している。

■パーソナル機器関連 4品目

2012年 1兆1,249億円 2016年予測 1兆 462億円

市場は占有率72%（2011年）のカーナビゲーションシステム（以下、カーナビ）／PNDの需要減を受け、2012年に前年比3.7%減となり、2016年には同10.4%減が予測される。カーナビ／PNDは、スマートデバイスとの競合によって主にPNDが縮小する。電子辞書の需要は主に日本であり、中国やその他アジアの需要は一部の富裕層向けに留まり、欧米ではパソコンや紙の辞書を利用するケースが多いため微減が予想される。電子メモの需要は、ほぼ日本である。ニッチな市場を狙った製品であり、安定した需要がある。電子書籍端末は、先行した北米が85%を占めている。日本では電子書籍コンテンツの充実や最大手であるAmazon.comが電子書籍端末を発売したことを受け、市場拡大が予測される。一方で、中国では競合製品となるスマートデバイスの普及によって、需要は減少すると予想される。

■入出力機器関連 10品目

2012年 5兆8,551億円 2016年予測 6兆5,358億円

市場は電子写真方式プリンタ（レーザープリンタなど）、インクジェットプリンタが牽引し、2012年に前年比5.0%増となり、2016年には同17.2%増が予測される。市場の半分を占める電子写真方式プリンタは、日本、北米、欧州のリプレイスを中心とした安定した需要に加え、中国やその他アジア、中南米の産業の活性化により、高成長が予想される。インクジェットプリンタは経済環境の悪化によって、先進国需要が低迷しているものの、新興国におけるデジタルカメラ普及に伴う需要が増加している。ドットマトリックス方式プリンタやフォトプリンタ、イメージスキャナ、デジタル印刷機は同様の機能を持つ製品との競争が激化しており、需要は縮小すると見られる。

エリア別に見ると、北米、欧州、日本の先進国の需要は一巡しており、リプレイスや高機能製品へのシフトが中心となっている。一方、経済成長の著しい中国やその他アジア、中南米などでは、需要が拡大している。

■システム機器関連 7品目

2012年 1兆3,775億円 2016年予測 1兆4,759億円

市場は、2012年に前年比2.4%増となり、2016年には同9.7%増が予測される。POSシステムやハ

ンディターミナルなどの流通系製品は、北米、欧州、日本で需要が一巡している。特にPOSシステムやカード決済端末は、大きな成長が期待しづらい。しかし、非接触式ICカードの普及やNFC対応モバイル端末などの新技術に対応した製品は需要増が期待される。一方、ATM/CD及び金銭処理機の金融系製品は、新興国での経済成長やインフラ整備に伴う需要拡大が期待される。

<調査対象>

コンピュータ 関連	サーバ関連	スーパーコンピュータ、汎用コンピュータ、オープン系サーバ、ワークステーション、ホワイトボックスサーバ 計5品目
	パーソナル コンピュータ関連	パーソナルコンピュータ、タブレット端末、シンクライアント、ホワイトボックスパソコン 計4品目
ストレージ関連		磁気テープ装置、テープライブラリ/オートローダ、ディスクアレイ、ハードディスクドライブ、NANDフラッシュメモリドライブ、DVDドライブ、Blu-rayドライブ 計7品目
ストレージメディア関連		磁気テープ、光ディスク（CD/DVD、Blu-ray）、メモリーカード、USBメモリー 計4品目
ネットワーク機器関連		ルータ、スイッチ、IP-PBX、データ通信端末 計4品目
モバイル関連		フィーチャーフォン、PHS、スマートフォン 計3品目
ポインティングデバイス関連		マウス、キーボード、ペンタブレット、デジタルペン 計4品目
パーソナル機器関連		電子書籍端末、電子辞書、電子メモ、カーナビゲーションシステム/PND 計4品目
映像/音響機器関連		液晶モニター、ビジネスプロジェクター、業務用FPD、電子情報ボード（インタラクティブボード）、電子黒板（コピーボード）、資料提示装置、ICレコーダ、アクティブスピーカー、ヘッドセット 計9品目
入出力機器関連		電子写真方式プリンタ、ドットマトリックス方式プリンタ、インクジェットプリンタ、フォトプリンタ、バーコードプリンタ、デジタル複写/複合機、デジタル印刷機、イメージスキャナ、電話録音装置、OCR専用機 計10品目
システム機器関連		POSシステム、ハンディターミナル、カード決済端末、ICカードリーダー/ライター、キオスク端末、ATM/CD、金銭処理機 計7品目
ファシリティ機器関連		スマートメーター、無停電電源装置（小型）、無停電電源装置（中/大型）、業務用エアコン、ターボ冷却機、非常用発電機、EV充電器 計7品目

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員による参入企業・関連団体などへの直接面接取材を基本とし、関連文献、社内データベースも活用

<調査期間>

2012年9月～2013年1月

以上

資料タイトル	「情報機器グローバルマーケット 2013（上・下巻）」
体 裁	上巻：A4判 272頁、下巻：A4判 225頁
価 格	各97,000円（税込み101,850円） CD-ROM付価格 各107,000円（税込み112,350円） 集計ファイルセット価格 各127,000円（税込み133,350円）
調査・編集	富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門 TEL:03-3664-5841 FAX:03-3661-7696
発 行 所	株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fcr.co.jp/

※<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> はデザインを一新し、ユーザビリティを向上させました。ぜひご利用ください。